

地域社会の課題解決に全力で取り組む

地域の様々なステークホルダーと連携し、知の拠点としてシンクタンク機能を果たすことで、地域の抱える課題解決に全力で取り組みます。

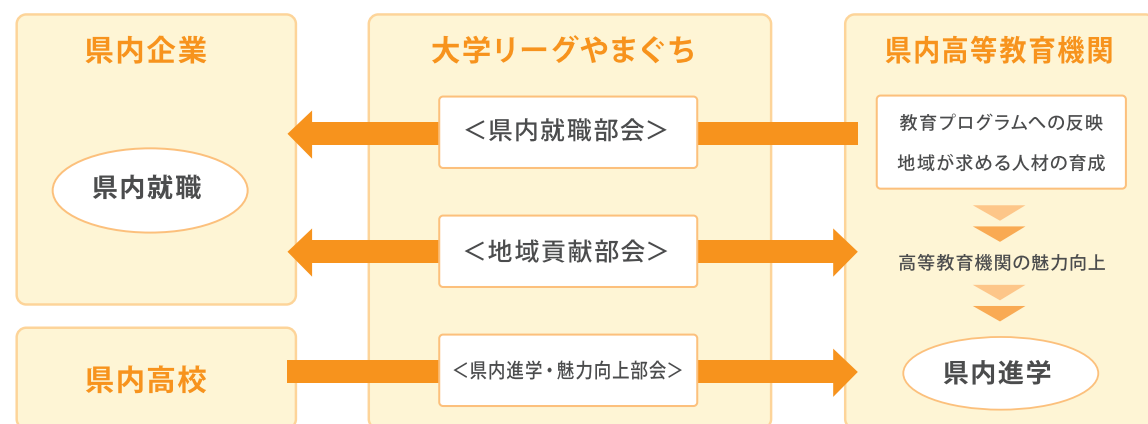
大学リーグやまぐち

山口大学は、山口県内の高等教育機関や経済団体、支援機関及び私学団体が連携を深め、県と協働しながら、それぞれの特性を活かした様々な連携事業の実施を通じて、若者の県内定着並びに高等教育機関の地域貢献力及び教育・研究水準の一層の向上を図ることにより、地域社会の発展に寄与することを目的として平成28年に設立された「大学リーグやまぐち」（事務局：山口県総務

部学事文書課）に参画しています。

本リーグは、方針決定を図るための合議体である「全体会議」と、その実行部隊として「県内就職部会」「地域貢献部会」「県内進学・魅力向上部会」の3つの部会で構成されています。本リーグにおける山口大学の役割は、「全体会議」の会長を山口大学長が務めるとともに、「県内就職部会」の主管校として、令和10年度までに学生の県内就職率を10ポイントアップさせることを目標に掲げ、様々な活動に取り組んでいます。

＜取組の全体像＞



やまぐち地域共創プラットフォーム

令和4年11月に山口市（公）、山口商工会議所（産）、山口銀行山口支店（金）、山口県立大学・山口学芸大学・山口大学（学）で構成する「やまぐち地域共創プラットフォーム」を設立しました。

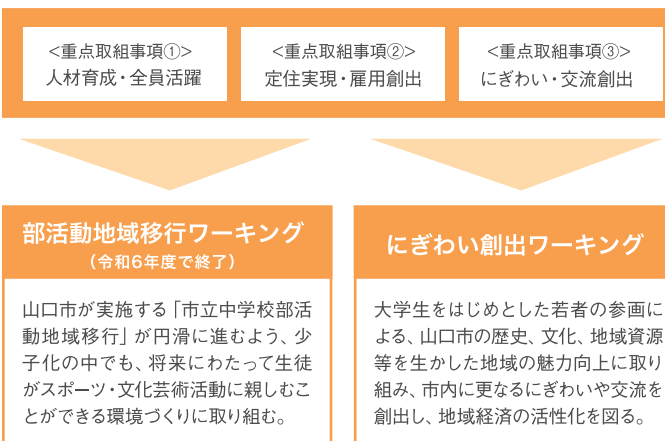
プラットフォームでは、山口市の現状や課題、各会員団体が掲げる将来計画の方向性を踏まえ、山口市の人口減少や少子高齢化の進展、人生100年時代が到来する中において、一人ひとりが楽しく、幸せを感じ、それらを支える環境が整っているまち「Well-being あふれる山口市」を目指し、①人材育成・全員活躍、②定住実現・雇用創出、③にぎわい・交流創出の3点を本プラットフォームの

重点取組事項として位置づけました。その重点取組事項について、具体的に取るために「部活動地域移行ワーキング」及び「にぎわい創出ワーキング」を設置しました。

「部活動地域移行ワーキング」では、中学校の課外部活動の地域移行に向けて、学生へ地域の指導者としての参画を促す手順を検討しています（ワーキングは令和6年度で終了し、令和7年度からは、山口市の検討組織が各学校・機関と個別に調整します）。「にぎわい創出ワーキング」では、「レノファ山口応援プロジェクト」及び「クリスマスマーケット」などを企画・実施し、市内3大学の学生を中心ににぎわい創出アイデアを提案し、そのアイデアの実現を図ることで、大学生を起点とした新たな賑わいの創出やシビックプライドの醸成を図っています。

大学は地域社会において活躍する人材を育成するのみならず、地域の経済・社会を支える基盤として重要な機能を持つ存在です。この機能を十分に果たすため、地域社会に大学はどのような貢献ができるのか、地域社会はどのような卒業生を必要としているか、大学の教育研究に何を求めているのかなどについて、地域社会を構成する関係者でプラットフォームを構築し、課題の共有・把握を行い、議論や様々な取り組みを行っています。

＜プラットフォームの取組み＞



＜クリスマスマーケット（R6.12.1開催）の様子＞



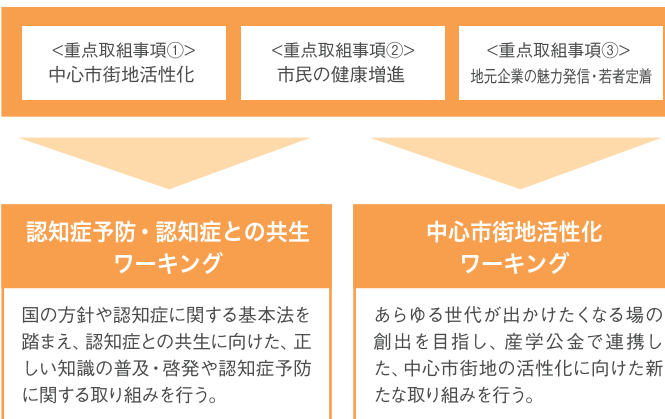
うべ・未来共創プラットフォーム

宇部市が掲げる「共存同栄・協同一致」の理念の下、令和4年11月に宇部市（公）、宇部商工会議所（産）、山口銀行宇部支店（金）、宇部フロンティア大学・宇部工業高等専門学校・山口大学（学）で構成する「うべ・未来共創プラットフォーム」を立ち上げ、「ひとが輝き交流ひろがるわたしたちの宇部」の実現を目指し、①中心市街地活性化、②市民の健康増進、③地元企業の魅力発信・若者定着の3点を本プラットフォームの重点取組事項とし

て位置づけました。

その重点取組事項を推進するために「認知症予防・認知症との共生ワーキング」及び「中心市街地活性化ワーキング」を設置しました。「認知症予防・認知症との共生ワーキング」では、幅広い層へ認知症に関する正しい知識を持ってもらうため、「認知症を知ろう展」を開催し、市民を対象とした啓発活動を行いました。「中心市街地活性化」については、若者（大学生）にどうやって中心市街地に来てもらうかという視点から公共交通機関の利用促進などについて、検討を進めています。

＜プラットフォームの取組＞



＜認知症を知ろう展（R6.2.11開催）の様子＞

